

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	熊本大学	整理番号	I02
プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO		
プログラム責任者	安東 由喜雄	プログラムコーディネーター	小椋 光

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、研究室ローテーション実習、行政・企業・海外インターンシップ、社会文化科学の座学と実践、社会貢献活動など、非常に充実したプログラムが実施されており、十分な成果が得られたと評価できる。平成 30 年 10 月現在のプログラム学生 50 名の内訳が留学生 50%、女性 38%、社会人経験者 36%と多様性のある学生の獲得に成功しており、また、これまでの日本学術振興会の特別研究員・DC 採用者 10 名のほか、早期修了者、同大学成績優秀者、ベンチャーコンテスト等受賞者など優秀な学生が多いこともグローバルに活躍するリーダーへと導く体制が構築されていることを示している。外部評価によってプログラムの適切な評価・改善が図られ、PDCA サイクルがうまく機能していると評価する。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、外部評価委員は、プログラム学生のコミュニケーション力及びグローバル（グローバルかつローカル）に展開する力が特に身に付いたと感じ、さらに、プログラム学生や教員は、それに加え企画立案実践実行力も身に付いたと実感しており、高く評価できる。また、従来のカリキュラム修了者と比較して、海外展開する企業や行政機関へ進出する学生が明確に増加し、申請時に想定したキャリアパスが実現したことに加え、プログラム 5 年目には起業家も出ているなど、本プログラムの優れた成果が得られており、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

事業の定着・発展については、学長が主導して、大学全体で本プログラムを中心に大学院組織の再編を行おうとしている姿が明確に見られ、十分評価できる。また、行政・企業セミナー、行政・企業・海外インターンシップ及び学生主導の企画提案型・公募型インターンシップ等の事業も支援期間終了後の定着・発展が予定されている。さらに、プログラム専任教員の配置や留学生への奨励金支給のほか、カリキュラムに基づく研修費用等の予算面でも非常に具体的な計画が進められており、事業の定着・発展に本腰を入れている点が特に高く評価できる。全体として、本事業の趣旨を十分に汲み取って、それを真摯に実行した極めて優れたプログラムであり、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。ただし今後、プログラム学生への経済的支援が減ることに伴う志望学生の減少を食い止める工夫が必要と思われる。